

# 生態学 から見た 東日本 大震災

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震、津波、そして福島原発事故は、東北地方の太平洋沿岸の広範な地域に甚大な被害をもたらし、この地域の生態系に様々な変化を引き起こしました。本講演会では、東北沿岸で地道な調査を続けてきた研究者が東日本大震災発生からの5年間を振り返り、大地震と津波によって生態系に何が起こったのか、その後どのように変化してきたのかということを一一般に向けて報告します。将来の震災に対し、生態系サービスや生物多様性を維持していくために、どのような努力が我々に可能なのかを考えたいと思います。

謹呈!!

講演者が執筆した図書『生態学が語る東日本大震災—自然界に何が起きたのか』(文一総合出版・平成28年3月刊行)を非会員を優先して先着350名に1冊謹呈

## 講演者

- |               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 横山 潤 (山形大学)   | 震災などの自然災害と生物多様性             |
| 平吹喜彦 (東北学院大学) | 豊かさの持続:よみがえる海浜生態系に学ぶ        |
| 黒沢高秀 (福島大学)   | 震災後の植物多様性と復旧事業:希少種の繁茂とその運命  |
| 鈴木孝男 (東北大学)   | 津波が干潟生物に与えた影響とその後の回復ならびに問題点 |
| 小寺祐二 (宇都宮大学)  | 原発事故由来の放射性セシウムによるイノシシの汚染の実態 |



日時 2016年3月20日(日) 13:00-16:00

場所 仙台市情報・産業プラザ 多目的ホール  
(〒980-6105 仙台市青葉区中央1丁目3番1号)  
JR 仙台駅よりペDESTリアンデッキ直結 徒歩2分 (右の地図参照)

入場無料

